



南阿蘇ビジターセンター 阿蘇野草園だより



●メボソムシクイ

野草園周辺には、秋に日本の北のほうから、子育てを終えてやって来ます。大きさはスズメよりやや小さく、羽は濃い目の黄緑、お腹は白い色です。野草園周辺で栄養を付けて、秋の終わりに東南アジアに旅発つ渡り鳥です。名前のいわれは文字どおり、主食が昆虫やクモで「ムシクイ」、目が細く見えることから、上に「メボソ」が付きました。

ムシクイの類は容姿が似ていて判別がむずかしく、鳴き声で判別します。メボソムシクイの鳴き声は「ジジジジ…」という地味な鳴き声です。他のムシクイは低木やブッシュの中を動き回りますが、メボソムシクイは高い木の上を行動することが多く、枝止まりの時間も短く、姿を見ることがむずかしい鳥です。



【写真提供】増田 泰夫さん(阿蘇地区パークボランティア)

☎ 南阿蘇ビジターセンター ☎ 0967-62-0911

人にやさしいまちの実現に向けて ～互いの人権を尊重し、支え合うことから～



性の多様性を正しく知ろう、そして、尊重しよう

(1) 性のあり方は「人それぞれ」です

私たちの「性」は複雑で多様です。人間の性を、「からだの性」「こころの性」といった視点・要素で考えてみると、それぞれが100%の男性や女性として振り分けられるものではなく、男女の間のどこかに位置する人もいます。一般的に、私たちは身体的にとらえ、「男性」あるいは「女性」と判断していますが、人間の性はそのように単純なものではなく、多岐にわたっているのです。

とりわけ、「からだの性」と「こころの性」が一致しない性的指向・性自認(※印参照)における性的少数者(性的マイノリティ)の人たちにおいては、時には生きづらさを感じたり、時には周囲の無理解な言動により傷ついたりしています。

※性的指向とは？

人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうかを示す概念です。具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛(ヘテロセクシュアル)、同性に向かう同性愛(ホモセクシュアル)、男女両方に向かう両性愛(バイセクシュアル)などをいいます。

※性自認とは？

自分の性をどのように認識しているか、どのような「性のアイデンティティ」(性同一性)を自分の感覚として持っているかを示す概念をいいます。「こころの性」と呼ばれることもあります。

(2) 「多様な生き方」を認め合う 社会の実現に向けて

人権に関する県民意識調査(令和6年度)では、「性的少数者(性的マイノリティ)の人たちに対して、どのような人権問題が起きていると思いますか。」(複数回答可)との問いに、「差別的な言動をされること」と答えた人の割合が47.7%と最も高く、次いで「職場や学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(45.7%)、「就職時や職場内で不利な扱いを受けること」(38.0%)とありました。([人権研修テキスト(熊本県)]から)

「性の多様性」に関する問題については、近年、様々な研修で取り上げられて理解されるようになってきました。しかし、一方で子どもたちを含む多くの当事者が、生きづらさを感じながら過ごしています。私たちが無理解、無関心でいることは、知らず知らずのうちに本人の心を傷つけることにつながります。自分の周りに当事者は「いない」のではなく、自分が「気づいていない」だけと受け止め、さらに学びを進めていきましょう。

「多様な性のあり方」や「多様な生き方」をお互いが認め合い、理解していくことは、全ての町民が暮らしやすい地域づくりにも繋がっていくのです。

☎ 教育委員会 地域人権教育指導員
☎ 0967-62-0227